



AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION

THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO SETAGAYA

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

C/O TOKYO YMCA MINAMI CENTER 3-23-2 MIYASAKA, SETAGAYA-KU, TOKYO, 156-0051 JAPAN

国際会長主題
アジア太平洋地域会長主題
東日本区理事主題

「輝かそう、あなたの光を」
「変革のための 光となろう」
「未来のために今、学びと気づきを！」
未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う」

Ulrik Lauridsen (デンマーク)
利根川 恵子 (川越)
山田 公平 (宇都宮)

東新部部長主題
クラブ会長主題

「All 東新部、継続・発展」
「心を尽くしてYMCAのために」

今井 武彦 (東京むかで)
小川 圭一 (東京世田谷)

会長 小川 圭一
副会長
書記

2023年9月会報

強調 テーマ

* E M C *

クラブ拡張・会員増強・維持啓発

会計 小原 武夫
直前会長 峰 毅
担当主事 押山 愛紀子

† 今月の聖句

それから、イエスは弟子たちに言われた。
『だから言っておく。命のことで何を食べようか、
体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。
命は食べ物よりも大切であり、
体は衣服よりも大切だ。』

Then He said to His disciples,
"Therefore I say to you, do not worry
about your life, what you will eat; nor
about the body, what you will put on.
life is more than food, and the body
is more than clothing.

ルカによる福音書 12 : 22~23 (寺門 選)

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 司 会 | 三浦 功雄 君 |
| 1. 開会点鐘 | 小川 圭一 会長 |
| 2. ワイズソングと信条 | 一 同 |
| 3. ゲストとビジター紹介 | 小川 圭一 会長 |
| 4. 今月の聖句朗読 | |
| 5. 会 食 | |
| 6. リーダーによる 夏キャンプ報告 | |
| たんぼぼ/世田谷ワイズに対するリビーのプレゼン | |
| 7. ハッピーバースデー | 9/2 寺門 文雄 君
9/15 村野 繁 君 |
| 8. 結婚記念日 | ありません |
| 9. ニコニコ献金 | |
| 10. 諸報告 | |
| 11. 閉会点鐘 | 小川 圭一 会長 |

※ 9月例会プログラム

と き 令和5年9月15日(金) 19:00~21:00
と ころ 東京YMCA南コミュニティーセンター3F
電 話 03-3420-5361

8月のデータ	会員在籍	12名	例会出席者	8月18日(金)	8月のBF他献金 切手 0g 現金 0円 累計切手 0g	ニコニコファンド 8月 11,023円 年度計 22,033円
	出席率	83%	会 員	10名		
	第2例会		メネット	0名		
	8月24日		イキャップ	0名		
	YMCAすずらん会		ゲスト	2名		
			ビジター	5名		
			合計	17名		
			すずらん会 再開			
			ゲスト	3名		
			スタッフ	7名		
			合計	10名		

2022~2023年度
自主献金については
今期もクラブからの
献金としました

本日のメインプログラム

リーダーによる、夏キャンプの報告と

レビューの現状を

内田 陽子さん (トビー)

渡辺 敦君 (タンバ)

※ 8月例会報告

《平和といのち》



社会福祉法人賛育会

法人事務局 ミッションサポート部 部長

赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト事務局長

大江 浩 氏

1. 中国難民救済施療班《京大 YMCA》— “戦争責任と贖罪”

日中戦争下の1938年、京大 YMCA の医学生達の中国難民救済施療班第1陣(活動:中国・太倉)の活動は、1939年には全国の学Y(長崎大学Yや名古屋大学Y等)の指導者を巻き込む第2陣に繋がりました。同年、活動を支えるために日本基督教青年会同盟医科連盟が結成されました。その原点は、痛切な“戦争責任と贖罪”でした。

戦況悪化のため、施療班の活動が中止となり、有志が現地に朝天病院を設立し、中国での医療活動が引き継がれました。同病院は、南京・日本人 YMCA の協力によって設立されました。計2回の施療班に参加した唯一のメンバーである榎本貴志雄医師が帰国を余儀なくされ、松島正雄医師(長崎大Y出身→衣笠病院医師)が初代院長に就任しました。

榎本医師はかく語っています。

「この医療班に属して中国に赴いたことは、中国人と接触してこれを友として与えられたことのほかに、日本人が中国で行なってきた暴虐の数々を直接間接に見聞する機会も与えられた。・・・それまで考えてきたような単なる医療奉仕ではなく、同胞の行なってきた非道な行いを、私たちは身をもって償わなければならないのだ、という気持ち、中国に捧げようという決心が、このとき私を捕えた」

戦後、後の JCMS の有志は福島での無医村医療を行い、1949年に横須賀の衣笠病院で日本キリスト者医科連盟

(JCMS) が再発足します。1960年には JCMS から JOCJ (日本キリスト教海外医療協力会) が誕生し、初代ワーカーとして京大Y出身の梅山猛医師がインドネシアへ、第二代は鳥取大学Y出身の岩村昇医師が“ネパールの任地へ赴き、草の根の人々”と共に生きるための医療活動に従事しました。

岩村医師は、広島での被爆体験を機に医師を目指した方でした。18年間の、ネパールの山岳地域医療を通して岩村医師は、「村の平和、村人の健康、そして地域を耕す(開発)村の指導者と村人の自立こそが大事だ」と痛感し、帰国後、“Peace, Health & Development”運動を提唱し、国際 NGO PHD 協会(神戸)を設立しました。

2. 社会福祉法人興望館(創立1919年/墨田区)

《希望を興す館》—隣人愛

興望館は、スペイン風邪の時代、1919年に東京の下町・墨田区で困窮する女性の自立支援と託児所の活動から誕生しました。日本キリスト教婦人矯風会外国人宣教師達によって始められたキリスト教セツルメントです。地域密着型の福祉活動は、その後、関東大震災や東京大空襲などの度重なる試練を経験していきます。

私は2020年からコロナ禍の3年間、認定こども園(旧保育園)園長兼法人常務理事として興望館の運営に携わりました。0歳児から5歳児まで約170人の乳幼児と献身的にキリスト教保育に関わる職員たちから、大変たくさんのお話を教えられました。コロナ禍の緊急事態を経験し、何度も挫けそうになりました。けれど、いつも子どもの元気に遊び歌う姿や生きる力に救われました。マザーテレサ曰く、「平和は笑顔から始まる」ということを実感した3年間でした。

興望館が運営する沓掛学荘(長野県軽井沢町)は、東京都が管轄する児童養護施設で、3歳から18歳まで30人の子どもが小規模ユニットの家庭的な生活を送っています。多数の子ども達は被虐待経験を持ち、家庭内暴力やネグレクトの問題を抱えていたり、療養が必要なケースもあります。18歳を超えると社会的な支援が得られなくなり、進学や就労も難しくなります。コロナ禍で卒業生は安定した生活が困難になり、自立が難しくなっていました。これが、現実。社会の縮図です。

沓掛学荘(1940年設立:最初はキャンプ場として取得しました)は、戦時下では疎開児童や戦争遺児が暮らし、戦後は戦災孤児やホームレスの子ども達を受け入れました。日本人初の吉見静江興望館館長は戦前、米国で社会事業を学んだ先駆者です。吉見館長はキャンプの教育的意義を重視し、興望館独自のキャンプ場を熱望していました。当時「学荘」はキャンプ場を表す呼称でした。それは「野尻学荘」にも象徴されます。以下、吉見館長にまつわる沓掛学荘物語の一端です。

「終戦にともない疎開児童が次々と東京に帰り、小学校の新学年との関係で1946年3月末には沓掛学荘には戦災孤児、引揚孤児のみが残った。この児童たちは両親が生死不明等のため帰る家がなく、学荘で引き続き生活することになった。1948年に児童福祉法が施行され、同法に基づく児童福祉施設として認可された。沓掛学荘はキャンプ場であると共に養護施設として用いられることになり、今日まで継続運営されている。

(吉見)先生は養護施設の発足にあたり、『戦後あの山の学荘では、戦災で孤児となった者と引揚児童 41 名を預かっております。牛も飼い、山羊も殖え、設備もおいおい整ってきましたが、ほかのことよりも本当に心から睦みあう家庭らしい雰囲気をつくって、伸び伸びと育て上げたいと思っております』

戦後、興望館は LALA 物資の支援拠点になり、窮乏する子ども達の救済に尽力しました。数々の苦難を越えて興望館と杓掛学荘の今があります。当時の久布白落實理事長(初代東京都民教会牧師)は、「アコルの谷を希望の門として与える」(旧約ホセア書)から取って、「希望の扉」→「希望を興す館」として興望館と名付けました。信仰に基づく「隣人愛」の実践を諦めない女性を中心としたボランティア精神が礎にありました。

3. 社会福祉法人賛育会(創立 1918 年/墨田区) 《東大 YMCA》— 隣人愛

1918 年、東大 YMCA は困窮する母子の保護・保健・救済のための無料診療所を開始します。興望館の前年、墨田区でもう一つのキリスト教セツルメントの始まりでした。賛育会もまた関東大震災や第 2 次世界大戦に直面していきます。以下は、戦時下での賛育会病院の様子です。

「死傷者は 12 万人。賛育会の施設もすべて焼失。が、幸い賛育会病院と錦糸病院の患者を荒れ狂う炎の海から命からがら避難させることができました。しかし、その後すぐさま被災者救護に立ち上がる気力は奪われ、ついに、空爆の 2 日後に焼けただれた賛育会病院の屋上で解散式を行い、散り散りに。8 月の広島と長崎への原爆投下で日本は無条件降伏。その秋から『りんごの歌』に人々は励まされ日本再建が始まります。しかし、理事長・藤田逸男も常務理事兼院長・河田茂もまだ暗闇の中にいました。その闇に希望の光を射す 2 人の男が戦地から帰還してきました。前記の丹羽昇と竹岡秀策が復員してきたのです」

賛育会病院は、激化する戦時下で、前述の中国南京の朝天病院へ看護師を複数名派遣し、大きな役割を果たしました。賛育会病院の医療支援もまた、学 Y の繋がりによって成しえた全国協力の賜物でした。国境を越えて「貧・病・争」に苦しむ人々へのキリスト教医療ミッションは、不可能を可能にしていきました。

私は今年 4 月より、「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」事務局長を拝命し、そのための事業開始に向けて諸準備を進めています。その基には、創立以来約 34 万人の助産をしてきた病院の経験と実績があります。昨今、予期しない妊娠や孤立出産の悩みを抱える女性の増加や嬰兒の遺棄など痛ましい事件が相次いでいます。背景には貧困や虐待・家庭崩壊、ジェンダーなど様々な社会課題があります。それは、途上国の「貧・病・争」と質は異なるものの、関係性の貧困、「孤立無援」という病、家庭内での争いという深刻な問題に重なります。

「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」は、105 年、

歩み続けてきた賛育会の「隣人愛」の実践における新しい 1 ページです。それは、やがて「すべての人々のいのちを守るプロジェクト」へ繋がるように願っています。人々の《平和といのち》、それは私たちの切なる願いです。決して、諦めません。イエス・キリストを“最後の砦”として、個々に与えられた務めを、微力ではあっても心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして果たしていくこと、その先に平和への希望があると信じています。



ゲスト:大窪 純一さん(下北沢すずらん会 サポーター)
ビジター石田 孝次さん、伊藤 幾夫さん、松香 光夫さん
権藤 徳彦さん、小原史奈子さん
渡邊美帆さんは「東新部 Y 友場・ワイワイコンサート」の紹介で久しぶりのリアル参加。

☀️ YMCA すずらん会

8 月 24 日 2:00~3:30 経堂緑岡教会
小川リーダーが「赤い火をふくあの山へ登ろう、、、」とフニクリフニクラを大声でリード、、、この日の参加者は 3 名、スタッフ 7 名。猛暑とコロナ再燃には脱帽です。お嬢さんに車で送られたご夫婦とお友達。「行こう行こう火の山へ、、、」フニクリフニクラ、、、



☀️ YMCA 保育園ねがいで植栽

コロナは一向に収まる様子が見えず、折からの猛暑で植栽活動はしばらく休止となりましたが、「親子でガーデニング」の機会を秋には持てることを願って、準備を進めています。



☀️ 会長通信 2309

地球温暖化の暑い夏です。もう9月なのに。身近にコロナや熱中症もあります。しかし、東西日本区とアジア世界のワイズは熱心に活動しています。青少年の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界を作ろうとしています。

小生は、ヒロシマの高校生が描いた「原爆の絵」展 in 有楽町（広島YMCA後援）に出かけました。

YMCA 保育園ねがいで植栽ボランティア。保育園と相談しながら予定をメールでお知らせしています。第4木曜日 14時からのYMCA すずらん会@経堂緑岡教会、応援願います。そのほか重要イベントが目白押しです。

- 1, 東新部 Y 友広場・ワイワイコンサート 9月18日
東陽町 渡邊ワイズが歌う歌声の集い。
- 2, 東新部部大会 10月7日(土) 13:30
※資料配布します。
- 3, インターナショナル・チャリティラン 9月23日(土)
木場公園
- 4, 熱海クラブ創立60周年記念例会 11月26日(日)
熱海後楽園ホテル

(小川 記)

☀️ YMCA NEWS

1. 7月30日、「下町子どもダイニングスペシャル」を東陽町コミュニティーセンターで開催した。日頃「下町子どもダイニング」のプログラムで子どもたちのゲーム指導を担っているボランティアリーダーに加え、夏休みを利用してボランティアを希望する高校生・大学生15人が集まり、当日の準備、調理、配膳、ゲーム指導、片付けを行った。
2. 今夏は幼児から高校生、及びファミリーを対象に、

山中湖センター、野尻キャンプ、高尾の森わくわくビレッジを中心に10の宿泊キャンプと日帰りキャンプを実施し、延べ約500名が参加した。また海外キャンプ「ダイナミックサマー」は、ハワイ、ニューヨーク、ボストンの3コースに小学3年生から高校生合わせて約30名が参加し、無事に終了した。

3. 南居場所事業部、及び西東京居場所事業部では、言葉や文化の違いから生きづらさや困難を抱える子どもたちをサポートすることを目的に、日本在住の外国にルーツを持つ子どもたちのためのサマーキャンプを8月22日～24日に山中湖センターで実施した。20名の小中学生と15名のボランティア・スタッフが参加をした。お互いに気持ちを伝えるために、言語だけでなくイラストや身振り手振り、相手に理解してもらおうという気持ちがたくさんあふれた時間となった。今後の展開方法を検討している。

4. liby 報告

夏休みを終え、9月6日(水)から通常libyが開室した。

5. 今後の日程

- ・「第21回アジア・太平洋YMCA大会」
9月15日～20日
テーマ：回復力のあるコミュニティとして共に歩む—Vision2030を通しての生き方の変革
会場：インド・チェンナイ
- ・「第26回会員芸術祭」(オンライン芸術祭)
9月～10月(東京YMCAのHP上に掲載)
- ・「第37回インターナショナル・チャリティーラン」
個人ウォーキング(オンライン)：
9月16日～23日
チームウォーキング(オンライン)：
9月23日～10月1日
チームレース(都立木場公園)：
9月23日
- ・「J.T. スウィフト主事&ミラー主事墓前礼拝」
10月7日
会場：横浜外国人墓地(横浜YMCAと共催)
- ・「ソウル・台北・東京YMCA指導者協議会」
11月6日～8日 会場：台北YMCA
テーマ：「神の視点と聖書の知恵から
現在の経済状況に向き合う」